

皆さんは「協働」という言葉をご存じでしょうか。「協働」とは「まちづくり」の分野でよく使われる言葉で、市民と行政が対等な立場で協力し合って地域の課題を解決していくことを「協働のまちづくり」といいます。

今回紹介する牧禎舎は、この「協働」によってよみがえろうとしている近代化遺産です。忍1-4-11に所在する牧禎舎は、元は「幸」の商標で知られた足袋・被服商牧禎商店の事務所兼住宅と工場です。工場は改装されていますが、落ち着いた佇まいの事務所兼住宅は欄間など見事で、戦前の住宅建築の様相を伝える貴重な近代化遺産といえます。

牧禎商店の創業者である牧野貞蔵は、牧野本店（市報ぎょうだ平成21年9月号参照）から独立して同商店を創業するに当たって、昭和15年（1940）に工場、次いで事務所兼住宅をこの地に建設しました。当時は日中戦争の最中で、貞蔵は事務所兼住宅が完成する前に召集されて出征し、妻子だけが先にこの家に転居したそうです。

復員した貞蔵は、被服を中心として商い、牧禎商店を軌道に乗せましたが、足袋産業の衰退などもあって、昭和50年代前半には工場を株式会社埼玉応化に貸し出し、店をたたみました。

株式会社埼玉応化が移転し、3年程前に貞蔵が亡くなると、この事務所兼住宅と工場は

空き家となってしまうました。しかし、遺族の方々がこの建物を残したいと「牧禎舎」と命名し、再活用をNPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワークに依頼。それを受けた同法人は藍染体験の出来る施設の開設を企画しました。時を同じくして行田市でも体験型観光施設の開設が考えられており、市の考えと同法人の企画がマッチしたことから市が同法人に事業委託する「協働」が実現し、5月9日（日）に「牧禎舎」が開館します（関連記事P8）。

「牧禎舎」が開館します（関連記事P8）。開館翌週末には同法人主催の「蔵めぐりまちあるき」で催しも行われますので、ぜひ訪れてみてください。

（文化財保護課 中島洋一）



牧禎舎

キラリ完気

No.86

イチゴのミニパフェ

果物でおしゃれスイーツ

イチゴにはビタミンCが豊富に含まれ、5～6個で一日の必要量を取ることができます。ビタミンCは水溶性のため、生のままとるのが効果的ですが、イチゴがたくさん手に入ったときは、電子レンジでイチゴソースを作ってみましょう。冷凍保存しておくこともできるので、手軽にスイーツを楽しめます。

材料（2人分）

イチゴ…10個 カステラ（市販品）…2切れ 生クリーム…100ml 砂糖…小さじ2
イチゴソース【イチゴ…1パック（300g） レモン果汁…大さじ2 砂糖…60g】

作り方

〈イチゴソース〉

- ①イチゴは洗ってヘタをとり、耐熱容器に入れ砂糖とレモン果汁を混ぜる。
- ②軽くラップをかけ電子レンジで3分加熱し、取り出してかき混ぜ再び1分加熱する。その後軽くかき混ぜそのまま冷ます。

〈パフェ〉

- ①カステラは3～4つに割り、器に入れる。イチゴは食べやすく切る。
- ②生クリームに砂糖を加え、トロリとなるまで泡立てカステラに添える。
- ③イチゴソース（大さじ1）をかけ、イチゴを飾る。



栄養成分（1人分）

エネルギー 275kcal たんぱく質 7.0g 脂質 20.7g
炭水化物 45.6g 食塩相当量 0g ビタミンC 80.6mg

（社）埼玉県栄養士会 行田・羽生の会

今月の表紙

4月4日、春らんまんの行田路を舞台に第26回行田市鉄剣マラソン大会が開催されました。

ハーフの部では、白バイに先導された選手たちによる激しいトップ争いが繰り広げられました。（関連記事16ページ）

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。

■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

■市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。

ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています